

《国語の基礎確認シート②》 文や文章の組み立て

※ 解答は、解答用紙に書きましょう。

一 次の(1)、(2)の各文の——線部は、述語に当たります。主語に当たる言葉を、——線部1から3までの中から一つずつ選んで、その番号を書きましょう。

(1) ずいとう、二人の目の前にりっぱな家があらわれた。

(2) 本日は、気象台は、四国地方が、梅雨明けしたとみられると発表した。

二 次の(1)、(2)の各文の——線部を修正し、整った文にしましょう。

(1) 五年生になってから、部屋のそうじや家の手伝いに全然取り組んでいる。

(2) 三学期の目標は、部屋のそうじや家の手伝いをしたい。

三 次の□の文は、あとの文章の《1》から《4》までのどの位置に入れるとよいでしょうか。最もふさわしいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

わたしの祖母が子どもだったころには、家にそうじ機がなかったそうです。

たたみそうじでは、最初にそうじ機をかけます。《1》そのとき、たたみの目に沿って、ていねいにかけて。《2》たたみの目には、ホコリやダニのふん、死がいなどがつまっていることがあるからです。《3》当時はどうしていたかというところ、お茶がらやぬらしてちぎった新聞紙をたたみにまき、それにホコリをすわせてから、ほうきではいていたそうです。《4》昔の人の知恵には、舌をまくばかりです。

四 次の文章の()に入る言葉として最もふさわしいものを、文章の中からぬき出して書きましょう。

中学生のころ、家の近所の森や林に行くと、たくさんの種類の昆虫があふれていました。採集した昆虫の名前を調べても、そのころに見ていた図鑑にはのっていないものが多く、「もしかしたら、新種かな。」とわくわくしました。すぐそばに生きているのに、()が分からない生物がいることに興味をもったことが、研究者になるきっかけでした。

五 次のCの文の()に入る言葉を、Bの文の言葉を使って十七字で書きましょう。

A インドネシアの学生は生活に必死で、なんにでも、どんどんチャレンジします。

B いつぼう、日本の学生は、自分から新しいことを習おうとしません。

C 日本の学生が海外に出て、()理由は、日本はすでに発展していて、留学のきっかけが見つからないからではないでしょうか。